

国内最大の耐震補強金具を設置

富山市の北部幹線防護工事で

大成機工 金具搬入から70分で設置は完了

大成機工は富山市上下水道局の北部配水幹線(φ1350)の防護工

事で国内最大口径の耐震補強金具を設置した。同局はこれまでも小口径管に耐震補強金具の設置を進めており、不漏水や施工時間の短縮、耐震管に

準ずる離脱防止機能など多様なメリットを評価して採用したもの。2カ所の工事を行い完了した。

北部配水幹線は流杉浄水場内の配水池から延長約10キロ、1971年に布設したφ1350のK形ダクタイル鉄管。

今回の工事は土地改良事業で小水力発電が建設され、その放水管が北部

配水幹線の真下を通るために設置した。当初、コンクリートブロックで対応を検討していたが、ブロック重量による管への影響などを考慮し、大成機工が新たに開発した大

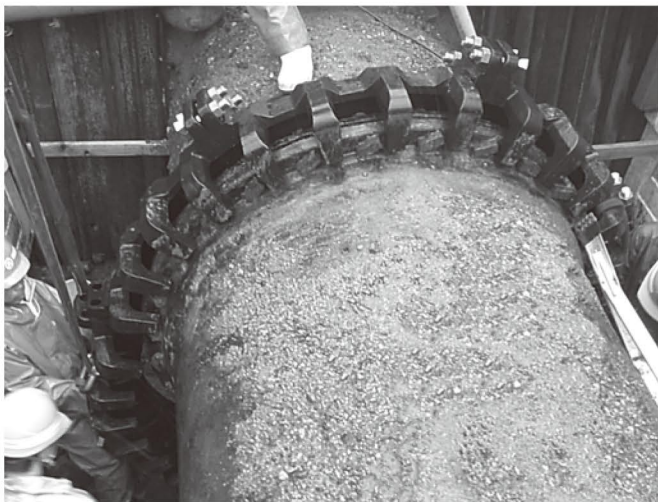
口径用の耐震補強金具を採用した。

大成機工は既設のA・K・T形ダクタイル鉄管が過去の地震で継手部の抜けが多発したことを教訓に耐震補強金具を開発。通水状態で継手の外周から専用金具を取り付けることで、耐震管と同等の3DNの離脱防止

性能を付加することができ。第2回インフラメンテナンス大賞の厚生労働大臣賞を受賞した注目の製品だ。

北部配水幹線の耐震補強金具工事では、掘削寸法の縮小化も実現し、1カ所の施工時間は金具搬入から設置まで約70分で完了した。

富山市は平成7年度から大口径管の更新には耐震管を導入し、小口径では避難所や病院など重要給水施設への管路において耐震補強金具で強化する方針だ。



第2回インフラメンテナンス大賞を受賞した耐震補強金具を設置した富山市での工事